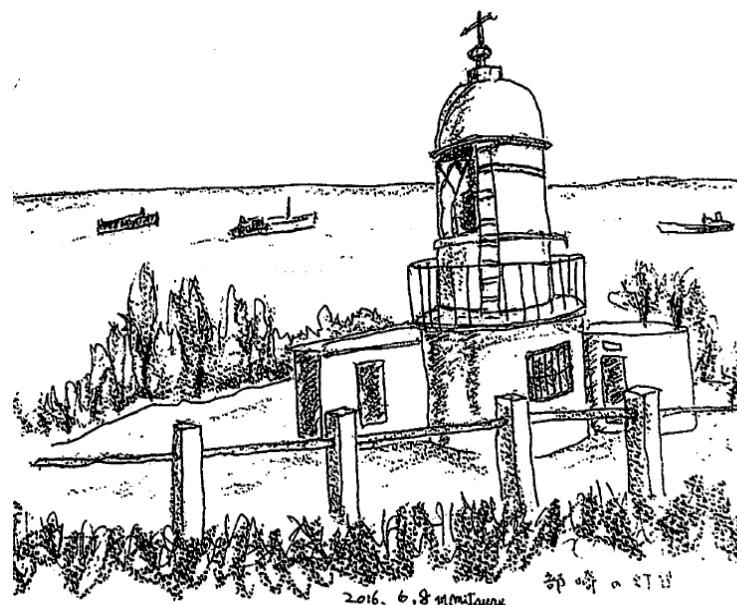


週報2020年7月26日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年7月26（日）

前奏	力丸勝子 師
開会の祈り	山崎銀次郎 牧師
信仰告白	使徒信条
	標語聖句唱和「コロサイ書 3章 15節」
讃美	新聖歌 259 「聖いふみは教える」 1~3節
献身の祈り	山崎銀次郎 牧師
讃美	新聖歌 208 「イエスは愛で満たす」
聖書朗読	コロサイ人への手紙 3章 12~17節
説教題	「キリストの愛に生きる」
お祈り	御言葉の応答の祈り
祝福と派遣の祈り	山崎銀次郎 牧師
後奏	力丸勝子 師

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈りあってますか

説教要約

コロサイ人への手紙3章 12~17 節
「キリストの愛に生きる」

I.緒論

コロサイの信徒達は偽教師の影響で信仰が揺れていました。そこでパウロはイエス・キリストによって神の子とされた救いの恵みを強調しました。そして信仰を持つ前の時のような神の御心を無視し、自己中心的な生活をすっぱりと止めるように迫っています。つまりパウロは実際に起こっている問題の答えとして「それはあなたの意思(信仰)の在り方の問題だ」と言っています。それが古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着るという事です。そしてパウロは「あなた方が身に着けるべきものは天から与えられる」という事を強調しています。

隣人に対して愛を示す事、赦しと寛容の心を持って人々に接する事、平和に物事が進むように判断し行動する事、そして主への賛美をいつも忘れない事。これらの物は全部、天の父が与えた贈り物であるとパウロは言っています。パウロが強調している事は「イエス・キリストから目を離さず、御言葉にピッタリとくつついで、その教えに従って一足、一足歩いて行きなさい」という事です。服を着るという事は体にぴったりと衣服を纏う状態です。パウロの願い、そして祈りはコロサイの人々がキリストにピッタリと結びついて成長することです。

当時、コロサイの信徒たちを惑わした教えについてパウロは「価値が無い」とバッサリ切り捨てています。それは3章10節にある、真の知識に達するものではなく、己の欲望をただ満たす為だけにあったからです。真の知識に達するという事は、神との和解を知るという事です。言い換えると、真の知識に達するという事は、神によって一人一人が召され、神の愛と赦しと一緒に体験し、この体験によって互いに一致する事です。肉の欲と闘いながら上よりの知識を求め、真の知識に達する道を歩むのか、真の知識に達しない「価値の無い」教えに従って御心に反していくのか、パウロは決断を迫っています。

II.本論(証)

中央聖書神学校には片付けヘルパー(通称方ヘル)、夕食ヘルパー(通称タヘル)という奉仕があります。それは日々神学校の食事を作って下さる賄さんのお手伝いをする事です。内容は調理補助、配膳、食後の洗い物等です。私は正直言うと、この方ヘル、タヘルが大の苦手でした。神学生数人でこの奉仕に当たるのですが、いつも足を引っ張り、自分が今までこういった家事をし

てこなかつたことが露呈され、恥ずかしかつたからです。

しかしながら苦手な“方ヘル”でしたが、奉仕を重ねる内に次第に母親の事と教会の婦人会の事を思い出しました。その時、思ったことは「私の知らない所で毎日このような奉仕や家事をしてくれていたのか…」という事です。つまり自分がした(自分にとっての)小さな苦労を通じて、大きな、本当に大きな犠牲を知りました。私は相手の犠牲を痛感した時、今まで相手に奉仕や家事をして当たり前という態度を取っていた自分、そして出来ない自分が恥ずかしいとか、こんなのが教えてもらっていないという自己中心な自分を恥じました。

私は上手下手は置いといて、一通り家事をこなせるようになりました。それはある人からすれば当たり前かもしれません。でも出来ない事が出来るようになったという所に価値があると私は考えています。そしてそれが出来るようになったのは、今まで何も言わずに犠牲を払い、私を愛してくれた方々によるものです。私が“方ヘル”を通じて学んだ事は、人の奉仕に敬意を払う事、今与えられている全てに感謝をする事、そして出来るようになった事を他の誰かの為に用いる事です。

III.結論

イエス様にしっかりと根差した歩みは真の知識に達します。しかしそのためにはいつも神様の方を見上げて歩む事が必要です。私達の心の在り方を自己中心から、イエス・キリスト中心に変えて下さったのは、神の愛と赦しによるものです。キリストの十字架の代価によって新しく生きる者とされたのです。だから心に愛と赦し、希望と平和、そして感謝が溢れます。

しかし何もしないと私達の目線は下がります。肉の性質に引っ張られ、心が地上のものに惹かれていきます。そうなると、また自己中心に陥り、自尊心を満たす生き方、批判的な生き方に陥ってしまいます。私達は神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されています。だから今追い求めるものは上にあるもの、神の愛と赦しです。

今日私達は、「新しい人を着る」という事を学びました。それは「イエス・キリストから目を離さず、御言葉にピッタリとくつついで、その教えに従って一足、一足歩いて行きなさい」ということです。そすれば必ず「真の知識に至る」と聖書は約束しています。それはつまり主にあって、愛と赦しと平和に満ち溢れた一体感のある教会になるという事です。北九州シオン教会が掲げる「キリストにある平和」「キリストにある一体感」を目指し、主を見上げ共に前進してまいりましょう。

新聖歌 259「聖いふみは教える」1~3 節

1. 聖いふみは教える 神が人となられて
人のために救いの 道を成就したこと
※わたしをも愛して 死なれた御方は
神の子のイエスさま ひとりだけだ
2. そんな愛を忘れて 道に逸れたわたしを
咎めだてもしないで 迎え入れてくださる ※
3. 神の前に行く時 歌う一つ覚えの
歌はイエスがわたしを 愛し給うそのこと ※

新聖歌 208「イエスは愛で満たす」

イエスは愛で満たす 聖霊で満たす
私の心の中を
イエスに今 すべてを委ねて生きよう
主は私を満たされる

わが主イエス 私を満たす
わが主イエス 愛をもて

コロサイ人への手紙3章 12~17 節

「キリストの愛に生きる」

【新改訳改訂第3版】

コロサイ人への手紙

- 3:12 それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔軟、寛容を身に着けなさい。
- 3:13 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。
- 3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帶として完全なものです。
- 3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。
- 3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と靈の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。
- 3:17 あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。